

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 月 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870105628		
法人名	有限会社ティーエムコーポレーション		
事業所名	グループホームすみれの丘NS		
所在地	松山市梅津寺町乙56-214 (電話) 089-907-2727		
管理者	秦千津子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 11 月 26 日	評価確定日	平成 19 年 月 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 14 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.8 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000~56,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 14 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	6 名	要介護 2	6 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海岸を見渡せる高台に位置しており、ホームのデッキからの景色は季節感があり絶景で、利用者・職員の気持ちを癒してくれる。ホーム内は居室も共用空間も広々と明るい雰囲気があり、浴槽にはリフトが設置されるなどの工夫もある。職員には看護師が5名いるため、医師・訪問看護との連携も適切に行われ、利用者・家族にも安心感を与えている。また職員の笑顔が多くみられるのは、職員間の信頼関係が仕事に好影響を与えているためと思われる。運営法人の福祉関連施設の管理栄養士・歯科衛生士などの協力もあり、生活の質の向上に活かしている。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

地域との関係が充分でないとの前回の評価があったため、今年度は運営推進会議の開催をきっかけにして盆踊りや運動会へ参加することができ、利用者の方に好影響を与えている。また、ホームから地域の方へ、認知症について知識を深めてもらう活動に取り組んでいる。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

ユニット単位で個別に自己評価を行っている。自己評価を行うことが日々のケアに役立つという意識を持っている。今回は全職員参加での自己評価ができなかったため、次回以降は全職員参加で自己評価を実施することを期待する。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

平成19年4月から開催している。地域資源の活用に向けて、町内会の活動予定や、利用者が安心して利用できたり休息できる場所の情報、回覧板や学校便りなどの閲覧、地域の防災組織・防災マップの情報収集を行ったり、認知症に関する知識を職員が伝えたりしている。今後は防災について具体的に連携が取れるよう話し合われることを期待する。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

職員は家族が面会に来た時に積極的に声をかけている。話をする回数が多くなるほど、家族が考えや意見を言い易くなると実感している。家族の意見は個別の介護計画にも活かしている。また、月に一度は個別の様子を詳しく手書きして郵送している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

盆踊りや運動会では、地域の方が座席を用意してくれ安心して参加することができている。また、地域の図書館に利用者2~3人と出かけたり、地域の公園におにぎりを作って出かけたりしている。また、職員採用時に地元の方の雇用に努めている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 すみれの丘

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)  
氏名 秦 千津子

評価完了日 平成 19 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしい、安心した自由な生活を送って頂けるような支援をし、介護の基本として日常的に話し合いを持っている。  (外部評価) 法人として「地域社会の一員として、穏やかに楽しく生きる張り合いのある生活を目指していきます」と明示している。職員も地域との交流が利用者に好影響を与えることを実感している。	※   ※	毎日、何か困ったことや不安なこと、新しい発見等毎日のミーティングの時間を作っている。   ホーム独自でも地域との関係についての考え方を話し合うことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 運営理念は提示しており、全員で理念を共有し、確認・実践するよう努めている。  (外部評価) 「不安や苛立ちをあらわにしていた人が、笑顔を取り戻し安心してここに住んでいたいと思うようになり、自ら意欲を持って行動するようになることを目指す」という理念は職員の業務に具体的に役立っている。症状の改善を通じて仕事の喜びや、やりがいを感じている様子がうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 町内会の方々を招いての見学会・説明会を開催しており、いつでも見学や面会を可能として受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の方々に見学や説明会を開催しており、スタッフとしても採用している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議で、地域の回覧板を回してもらうようになり、地域の行事内容が理解でき、参加させてもらっている。  (外部評価) 地域の盆踊りや秋祭り、運動会などへの参加・見学を平成19年度から行っている。地域の方が座席の確保をしてくれるので、安心して参加し、楽しめている。また、職員は地域の方を積極的に雇用する考えも持っている。大正琴やギターのボランティアも受け入れており、地域との交流に前向きな様子が感じられる。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の中で、老人会の方々・民生委員・町内会長さんから病気について質問があれば、分かりやすくお話・説明させてもらっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を活かして改善していくよう、スタッフ全員で前向きに話し合いをしている。  (外部評価) 前回評価で地域との交流について努力することが課題としてあげられたが、現在は運営推進会議を中心に地域との交流を図っており、評価を活かした取り組みができています。また、ユニットごとに個別に評価を行っており、自己評価を行うことの意義も理解されている。	※	今回は自己評価を全職員で取り組んでいないため、次回からは全員が参加して評価に取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) こちらが困っていることや分からないことを質問させてもらい、意見やアドバイスを頂いて実行するよう努めている。		
			(外部評価) 会議では、ホームでの生活の様子や認知症について伝えたり、高齢者が出かけやすい場所について教えてもらったりしている。また、地域のいろいろな行事予定についての情報を知ることができ、利用者の生活に楽しみが増えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者と運営推進会議以外には、行き来する機会は作っていない。	※	サービス向上に取り組む為にも機会を作っていきたい。
			(外部評価) 運営推進会議で意見交換を行っているが、それ以外で連携はとれていない。	※	現場でないと分からないような制度上の疑問点や、利用者・家族の気持ち、スタッフの苦労などを積極的に伝えることを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要な人には成年後見制度の説明をさせてもらい、活用できるように支援している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修・講習会に参加し、スタッフにも伝えて虐待防止に注意払い防止に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の権利や義務は、契約書等に具体的に記載されており、同意も得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃より話しやすい雰囲気作りをして信頼関係を結べるよう努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会に来られる度に最近の様子をお話しし、お金の使用や残金等、希望があれば家計簿を見てもらっている。職員の異動報告はしていない。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問時に職員が積極的に声をかけ、情報を伝えて意見交換を行っている。訪問がない場合は郵送で一人ひとり個別の文書を作成し様子を伝えている。訪問しやすい雰囲気づくりに配慮しているためか、評価当日も来訪者が多くいた。宿泊・食事と一緒にできるようにしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時に積極的にお話をし、何か不安や希望はないかお聞きしている。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問時に、全職員が積極的に意見交換を行っている。意見交換の回数が増すごとに信頼関係ができ、本音を聞くことができている。玄関には意見箱も設置している。重要事項説明書にも、内部・外部の苦情相談窓口を明記している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	※	毎週のミニミーティングに出た意見を週1回の主任会議に提案・報告している。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 問題行動が出現し大変な時間帯には職員を増員することがある。外出希望等、柔軟に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動や退職はほとんどなく、利用者が混乱しないように配慮している。  (外部評価) 職員の離職はほとんどない。職員間のコミュニケーションがよく、信頼関係が感じられる。そのためか、職員がやりがいを持ちながら安心して働いている。評価当日も職員の誠実な笑顔が目立ち、働きやすい職場である様子が伺え、利用者にも良い影響を与えている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や講習には積極的に参加するようにしている。  (外部評価) 研修情報は全員に伝え、参加費も運営法人が負担している。研修参加後は全員に伝達を行っている。管理者も職員も研修の意義については充分理解している。	※  ※	研修・講習に必要なお金は運営者が出している。前もって申し込み・後でレポートを提出している。  今後も全職員が研修に参加できるよう取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ターミナルケアの勉強会に参加したり、地域の会合に参加している。  (外部評価) 運営法人内にグループホームが4つあり、計画作成担当者が定期的に研修会を開催し、困難事例への対応や取り組みについて意見交換を行い、全職員に伝達している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 何でも話せる雰囲気作りに努めており、不満や不安を相談してもらうように話し合いを持っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の体調（身体的・精神的）に注意し、早めに異常をキャッチし前向きに考えられるよう皆で支えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 毎日1人1人と話をし、困っていること・不安等を聞き出し早期対応している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会の際度、必ず声をかけて本人の状態や家族からの要望をお聞きしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 病気に対しての相談があった時には、専門医の受診をする。その結果も詳しく説明できている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 馴染んでもらえるよう、家族より利用者の日常の生活についてや興味のある事等、聞かせてもらい徐々に近づいている。  (外部評価) サービス利用前に管理者が訪問し本人と面談したり、家族から本人の嗜好などを聞き取ったり、可能な場合はホーム見学に来てもらっている。また、入居後は家族と一緒にいる時間を多く持ってもらうなどの方法で不安を解消している。	※	入居前に職員と顔見知りの関係ができ、安心して入居ができるような取組みを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者を尊敬する気持ちを持ち、敬意を払い接しながら、1日1日大切に暮らし、支え合い・支えられながら生活している。  (外部評価) 職員は利用者から大正琴や社交ダンスを学んだり、地域の昔話を教えてもらったりしている。また、職員が疲れているようなときは「無理しられんよ」と、声をかけてもらい、癒されることがしばしばある。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 色んな出来事(驚いたこと・楽しかったこと)をお話し、来られなかった間の様子を率直に詳しくお話している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 居室でゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。なかなか面会に来られない方に対しては毎月、生活の様子と面会のお願いをする文書を送付している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・知人の面会時に、利用者の笑顔や安心感を代弁し、再来してもらえるよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 座る席を考え関わりあえるよう、スタッフが間に入り支え合えるように努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院によって一時施設を離れてしまったときには、面会に行き、出来る事はお手伝いさせてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 暮らし方の希望は1人1人違う為、出来るだけ叶えられる様話し合い、統一に努めている。  (外部評価) 利用者が希望を言い易いように、一人ひとりの居室で話をする時間を多く持っている。また、表情や態度に留意して、何か不安や不満があることを感じ取った場合は、根気よく聞き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に聞き取りはしているが、深いところの情報は徐々に馴染んで貰いながら、会話の中から収集・把握している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日の体調に合わせて、無理強いはせずに利用者に聞きながら生活しやすいようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者・家族の希望や不安を聞きながら、職員と話し合いケアプランを作成している。  (外部評価) 本人の意向は一人ひとりの居室で話をする際に確認している。家族からは面会の際に常に希望や要望を聞きケアプランに活かしている。ケアプランは担当者のアセスメントを基に、ケアマネジャーが確認して作成している。また、他スタッフの意見もミーティング時に聞いている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1度、ケアプランの見直し、月に1度の評価を行い変化があれば新たな計画を作成している。  (外部評価) 3か月に一度介護計画を作成し、1か月に一度モニタリングを行っている。それ以外にも身体又は精神状況に変化があれば計画変更を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は正確に、そのままの言葉を記入し、その日の様子が分かるようにし、情報を共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 病院受診の同行・外出の同行等、家族がいけない場合はスタッフが対応しており、柔軟な支援が出来ている。  (外部評価) 利用者の希望する外出（美容院・図書館・買い物）や通院介助などを行っており、職員の業務に支障のないように勤務時間を変更するなど工夫している。また、法人の歯科衛生士が頻回に訪れ、利用者に口腔ケアの指導を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの方々に慰問に来て頂き、楽しい時間を過ごしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスを利用したことはない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要時には、地域包括支援センターや市の介護課に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望する病院へ受診し、結果は必ずかぞくに報告している。  (外部評価) 本人及び家族が希望するかかりつけ医になっている。職員は本人の現在の様子を家族よりも正確に把握しているので、正確な情報を医師に伝えるために、病院には職員が同行している。また、処方された薬については、その必要性等を全職員が適切に理解できるよう薬ボードを作成し、適切な服薬支援を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医を受診し、利用者が安心されるよう、相談・診察を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職が5名いるので情報交換したり、相談しながら健康管理に注意している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院したときには定期的に面会へ行き、早期退院できるように、主治医や家族と相談・話し合いをしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期のあり方や希望を本人や家族に問いかけ、話し合いの場を持っている。  (外部評価) 病状の経過を踏まえ、必要に応じ医師に相談しながら、家族・本人の意向を確認している。入居時に利用者からの申し出で確認できる場合もある。ターミナルを迎える本人・家族の気持ちの理解などを学ぶためにターミナルケアの研修会にも参加している。看護師が5名おり、訪問看護師との連携も適切に行える。ホームとして看取りの経験もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末期をどのように過ごすか話し合い、出来ること・出来ないことを分かりやすく説明していき病院と施設で連携して支援している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 出来るだけの情報は提供し、利用者が次の所で早く馴染めるよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように気をつけている。  (外部評価) 言葉かけなど安心感のある笑顔で接している。また、入浴や排泄の際もプライバシーに配慮している。ミーティング時に職員間で話し合う場合も、利用者が近くにいれば名前ではなくイニシャルで呼ぶなどの工夫をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 毎日話したり関わる事で色々な思いや気持ちを話して貰えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人その人のペースに合わせた生活をしている。希望は出来るだけ叶えられる様、努めている。  (外部評価) 一般的な一日の流れにこだわらず、一人ひとりの希望で時間を過ごしているためか、それぞれの居室で過ごす時間が多い。スタッフは積極的に居室を訪れ、コミュニケーションと事故予防に取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 出来るだけ自分で選んでもらったり考えてもらっている。理容・美容は個々に合わせている。	※	希望者は、行きつけの美容室に通っている。それ以外の方は訪問美容にお願いしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の味付け・作り方を教えてもらったり、配膳を手伝ってもらうなど、その方がその日に出来そうなことを協力してもらう。  (外部評価) 利用者と職員が同じテーブルで一緒に楽しく食事している。食後はしばらくの間皆でおしゃべりを楽しんでいる。利用者はそれぞれできることに合わせて食事の準備や後片付けを手伝っている。おにぎりを作って外出先で食べることもある。誕生会は希望のメニューを取り入れている。料理の勉強に行った職員もいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 食べたい物・飲みたい物はないか聞いている。(お酒やタバコ希望者はいない)		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 食事の前後にトイレの声かけをしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 週に2～3回入浴できるように、利用者の体調にあわせて声かけをしている。  (外部評価) 入浴日、時間帯に決まりはなく、希望を中心とした利用が可能である。リフトが設置されており、全員が浴槽に浸かれる工夫がある。リフトは安全面と職員の無理のない介護にも役立っている。入浴を拒否する方には、誘うタイミングや声をかける職員を代えるなどの工夫をしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に安心して生活できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その人その人に合わせた気晴らしの支援を心がけている。  (外部評価) 植木職人だった人には剪定を、整備士だった方には道具の修理や細かい作業などをお願いしている。また、着物の着付けや魚のさばき方を教えてもらうなど多くの場面で力を発揮してもらっている。また、お正月はできる限り家族と楽しく過ごせるよう配慮している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小口現金はスタッフ管理となっているが、自分で持っていたい方は家族と相談の上、一部を管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) テラスに出て日光浴や風に当たったり、建物周辺を散歩したり、利用者の希望により支援している。  (外部評価) 図書館や買い物など、希望のある方との外出は積極的に行っている。また、ホームには車いすも出入りできる広いテラスがあり、テラスからの風景は海・山に囲まれ絶景でベンチも置かれ、景観のよい展望台にいる気分を味わえる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) お出かけプランを立て、ドライブへお誘いしている。2回の利用者さんと一緒に観劇に出かけたり、お食事でかけたりしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 葉書きで知人とやり取りしている方がいるので、ポストへの投函・葉書きの購入を支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも来ていただけるような雰囲気作りにより、面会は多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中玄関には鍵はかけず、いつでも誰でも訪問してもらえるようにしている。  (外部評価) 職員は常に見守りの意識を持っており、特に注意を払う必要のある利用者は常に居場所を把握するよう心がけている。玄関は開閉時にチャイムが鳴り、その都度確認している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常時、1人1人の所在を把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 家族と相談・話し合いの中で危険だと思うものは居室には置いていない。見守りのもと、自由に使ってもらっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒の危険がある方は、出来るだけ見守り・声かけをしている。防災訓練の指導を受け、スタッフ間で話し合っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 看護職が5名いるので分からないことはミニ勉強会を開いている。日々の体調管理に努めている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防の方に来てもらい、火災時の通報・消火・避難誘導の方法等の指導を受けた。  (外部評価) 消防署の通報・避難誘導・消火訓練を受けている。ホームは出入口と、非常口を広く取っており、万一の避難の際に安心である。災害時には運営法人内相互で利用者の避難先となることも想定している。	※	火災以外の災害も含めて想定し、万一の場合に地域の協力も得られる準備を期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 1人1人のリスクについては必ず家族の方にお話しし、要望も聞いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化の早期発見に努め、スタッフ間で注意点を申し送っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ1人1人に薬の効果・重要性を理解してもらえよう、説明している。(個々に薬ボードを作成し、薬の名前・効果を記入している)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 散歩をすすめたり、おやつに寒天を使用した手作りの物を出している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 眼前にはきれいに洗浄し口腔ケアを行っているが、毎食後に出来ている方と出来ていない方がいる。	※	やはり食べ物が口の中に残っていると汚いので、毎食後に洗浄をすすめていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量・水分量をチェックして、不足気味の方には積極的に声かけしている。  (外部評価) 運営法人内の管理栄養士作成のメニューを基にしている。慢性腎不全や胃ろうの方にもそれぞれに配慮して適切な対応をしている。食事・水分摂取量も確認している。	※	水分不足の方には、その方の好みを聞き出してみる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対して、手袋・マスクの使用と手洗いの励行、消毒の方法を知る。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮な食材を注文・確認し、布巾の消毒を行ったり、手洗い・手の傷に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関等、プランターに花を植えて明るい雰囲気になるよう工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 窓を開け自然の風を入れたり、光はカーテンで調節している。  (外部評価) 共用空間は広く明るく、風通しもよい。共用空間からは海や山が見え、ウグイスの鳴き声が聞こえるなど季節感を味わえる。トイレの場所もユニットの端と中央にあり、介助する側にも使い勝手のよい広さや手摺りがある。廊下も広くホーム全体に開放感がある。食卓も職員と一緒に食べても十分な広さがある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の席は気の会う方を近くにしたり、間にスタッフが入りフォローしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できるだけ、家で使用していた思い出のある物・馴染みの物を部屋に置くようにしている。  (外部評価) ホームはベッドと洋服タンスを用意している。希望によりフローリングに畳を敷くなどして利用者の今までの生活スタイルにあわせている。ソファ、机、チェスト、仏壇、テレビ、家族の写真などを思い思いに持ち込み、その人らしい居室になっている。職員は本人・家族と相談し、安心して過ごせる居室づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 小まめに訪室し、利用者に聞きながら換気や温度調整をしている。家族には今までの生活について(冷・暖房)お聞きする。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人ずつ身体機能を活かし、安全に自立した生活が送れるよう検討している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 出来るだけ自力で出来るよう見守り、気長に様子を見ながら出来ない部分を援助する。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 広いテラスがあるので、日光浴や風に当たるよう声かけしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	太ってもいいから好きなだけ食べたいという方に対して(1名)何度もお話し、出来るだけ叶うように努力しているが、まだ不満だといわれることがある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつの後すぐに席を立たず、できるだけゆっくり過ごしておしゃべりタイムを作っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その人に合わせ、無理強いはしていない。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	慣れてこられたので、皆さんの笑顔を多く見るようになった。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	外出・買い物を希望される方が1名のみだが、希望があれば出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	看護職がおり知識があるので、利用者の不調の早期発見・病院受診が出来る。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	柔軟な支援は出来ていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の面会時には、必ずそれまでの様子を全てお話ししており、要望も聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	ボランティアで地域の方が訪ねて下さっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方・介護課の方にこちらの様子を理解してもらい、こちらの分からないこと・不安なことを教えていただき、安心へ繋げている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑いの多い職場だと思う。利用者もスタッフもお互いを思いやる気持ちがある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何でも話せるような雰囲気を作り、言いたい事・困っている事を言って貰えていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に色んな話をするが、ここに入って良かったという言葉も多く聞いている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 すみれの丘NS

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 嶋矢 あゆ美

評価完了日 平成 19 年 9 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 認知症になってもその人らしく暮らし続けられる・・・という思いのもと、自尊心に配慮した対応を心がけるようにしている。  (外部評価) 法人として「地域社会の一員として、穏やかで楽しく生きる張り合いのある生活を目指していきます」と明示している。職員も地域との交流が利用者に好影響を与えることを実感している。	※	ホーム独自でも地域との関係についての考え方を話し合うことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットに理念を掲げ、日常的に見ており認識できている。理念を念頭において、介護に取り組んでいる。  (外部評価) 「不安や苛立ちをあらわにしていた人が、笑顔を取り戻し安心してここに住んでいたいと思うようになり、自ら意欲を持って行動するようになることを目指す」という理念は職員の業務に具体的に役立っている。症状の改善を通じて仕事の喜びや、やりがいを感じている様子がうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の際に、地域の方々に向けて伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣に民家が少なく、丘陵地に建物があり日常的な付き合いはできているとは言えない。	※	今後は地域の集まりに参加し、地域の方々とのつながりを持っていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の回覧板を回して頂き、自治会や地域の行事に参加して交流を図っている。  (外部評価) 地域の盆踊りや秋祭り、運動会などへの参加・見学を平成19年度から行っている。地域の方が座席の確保をしてくれるので、安心して参加し、楽しめている。また、職員は地域の方を積極的に雇用する考えも持っている。大正琴やギターのボランティアも受け入れており、地域との交流に前向きな様子が感じられる。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等で、認知症の方を抱えている家族へ病気の知識やグループホームの概要を説明した。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価の後から、徐々に地域とのつながりが持てるような取り組みを行っている。  (外部評価) 前回評価で地域との交流について努力することが課題としてあげられたが、現在は運営推進会議を中心に地域との交流を図っており、評価を活かした取り組みができています。また、ユニットごとに個別に評価を行っており、自己評価を行うことの意義も理解されている。	※	今回は自己評価を全職員で取り組んでいないため、次回からは全員が参加して評価に取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、グループホームの取り組みなどの報告を行い、又地域の方の声をサービス向上に生かせるように努めている。		
			(外部評価) 会議では、ホームでの生活の様子や認知症について伝えたり、高齢者が出かけやすい場所について教えてもらったりしている。また、地域のいろいろな行事予定についての情報を知ることができ、利用者の生活に楽しみが増えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村の担当者と積極的に会う機会を持てているとは言えない。		
			(外部評価) 運営推進会議で意見交換を行っているが、それ以外で連携はとれていない。	※	現場でないと分からないような制度上の疑問点や、利用者・家族の気持ち、スタッフの苦労などを積極的に伝えることを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 様々な研修で学ぶ機会を設けており、必要に応じて活用できるよう、家族へ説明を行った。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 資料の配布を行い、スタッフ間でのミーティングに取り上げて、虐待防止についての認識を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や解約を行う際には、利用者や家族と十分な話し合いを持っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 個々に話を伺ったり、家族を交えて相談に乗り、ケアプランへ反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会に来られた時や、郵送で家族へ近況を報告している。  (外部評価) 家族の訪問時に職員が積極的に声をかけ、情報を伝えて意見交換を行っている。訪問がない場合は郵送で一人ひとり個別の文書を作成し様子を伝えている。訪問しやすい雰囲気づくりに配慮しているためか、評価当日も来訪者が多くいた。宿泊・食事と一緒にできるようにしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置や、面会時に家族と会話する機会を設けて、意見を聞くことができるような配慮をしている。  (外部評価) 家族の訪問時に、全職員が積極的に意見交換を行っている。意見交換の回数が増すごとに信頼関係ができ、本音を聞くことができる。玄関には意見箱も設置している。重要事項説明書にも、内部・外部の苦情相談窓口を明記している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフの意見などは、施設内の会議の場で検討されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者が落ち着かない時、病院受診などがある場合は、スタッフの増員を行って対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 常時スタッフ間でミーティングを行い、意識統一を図っている。  (外部評価) 職員の離職はほとんどない。職員間のコミュニケーションがよく、信頼関係が感じられる。そのためか、職員がやりがいを持ちながら安心して働いている。評価当日も職員の誠実な笑顔が目立ち、働きやすい職場である様子が伺え、利用者にも良い影響を与えている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 主任が研修情報をスタッフへ伝えて、適任者が研修を受けられるようにしている。  (外部評価) 研修情報は全員に伝え、参加費も運営法人が負担している。研修参加後は全員に伝達を行っている。管理者も職員も研修の意義については充分理解している。	※	今後も全職員が研修に参加できるよう取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会への出席の機会を作り、他の施設のスタッフとの意見交換や交流に努めている。  (外部評価) 運営法人内にグループホームが4つあり、計画作成担当者が定期的に研修会を開催し、困難事例への対応や取り組みについて意見交換を行い、全職員に伝達している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年に1～2回、懇親会をかねた食事会を開くようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各事業所の主任職より、職員個々の状況を聞いたり、資料の配布を行い、各自の向上心の維持・向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 営業のスタッフにより、きめ細やかな対応を行っている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 営業のスタッフとグループホームのスタッフで、入居までにしっかり話し合いが行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 営業スタッフがよく話を聞いた上で、家族や本人の意向を確認している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 可能ならば入居前に見学に来ていただいたり、入居後もスタッフと家族間で話し合いを持ちながら、利用者が徐々に馴染める様に配慮している。  (外部評価) サービス利用前に管理者が訪問し本人と面談したり、家族から本人の嗜好などを聞き取ったり、可能な場合はホーム見学に来てもらっている。また、入居後は家族と一緒にいる時間を多く持ってもらうなどの方法で不安を解消している。	※	入居前に職員と顔見知りの関係ができ、安心して入居ができるような取組みを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 自尊心に配慮しながら、共感し、共に過ごす姿勢を心がけている。  (外部評価) 職員は利用者から大正琴や社交ダンスを学んだり、地域の昔話を教えてもらったりしている。また、職員が疲れているようなときは「無理しられんよ」と、声をかけてもらい、癒されることがしばしばある。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が参加できる行事を催したり、日常の生活状況をお伝えし、利用者本位の支援を心がけている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族と利用者の微妙な心境の変化に配慮し、よりよい関係を保っていけるように関わりを持っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知人が訪ねて来やすいような対応を心がけている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個々の個性に配慮して、上手く関わりが持てるような声かけ・誘導を検討している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在までに、継続的な関わりを必要とする事がなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 継続的に、一人一人の希望や意向の把握に努め、プランに反映することでその実現に努めている。  (外部評価) 利用者が希望を言い易いように、一人ひとりの居室で話をする時間を多く持っている。また、表情や態度に留意して、何か不安や不満があることを感じ取った場合は、根気よく聞き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族・利用者に詳しく話を聞いてから入居されているが、入居後も継続して馴染みの暮らし方や経緯などの把握を行っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 以前の状況～現在の状況について、総合的に把握・検討を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 個別に、家族・利用者・スタッフ間で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。  (外部評価) 本人の意向は一人ひとりの居室で話をする際に確認している。家族からは面会の際に常に希望や要望を聞きケアプランに活かしている。ケアプランは担当者のアセスメントを基に、ケアマネジャーが確認して作成している。また、他スタッフの意見もミーティング時に聞いている。	※	なかなか面会に来られない家族とも話し合いの機会を設けて、意見をプランに反映していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 身体・精神状況の変化に応じた対応を行っており、できるだけ家族と話し合いながら、その都度プランの見直しができている。  (外部評価) 3か月に一度介護計画を作成し、1か月に一度モニタリングを行っている。それ以外にも身体又は精神状況に変化があれば計画変更を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気付きは具体的に記録したり、申し送りやミーティングで情報を共有しながら改善に努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者や家族の状況や要望に応じて、金銭面などに配慮したり、地域の希望についてはなるべく希望に沿うよう配慮している。  (外部評価) 利用者の希望する外出（美容院・図書館・買い物）や通院介助などを行っており、職員の業務に支障のないように勤務時間を変更するなど工夫している。また、法人の歯科衛生士が頻回に訪れ、利用者に口腔ケアの指導を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れ・消防訓練を行うなど、各機関と協力している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の他のケアマネとの連携はしっかり取れているとは言えない。	※	できるだけ地域の他の事業所とも連携を深めるように努めていきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、ホームの取り組みなどは説明したものの、協働が行えているとは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の意向にそったかかりつけ医と事業所との関係を築いている。  (外部評価) 本人及び家族が希望するかかりつけ医になっている。職員は本人の現在の様子を家族よりも正確に把握しているので、正確な情報を医師に伝えるために、病院には職員が同行している。また、処方された薬については、その必要性等を全職員が適切に理解できるよう薬ボードを作成し、適切な服薬支援を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 定期的に専門医を受診して相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 事業所の看護職が中心となって日常の健康管理を行い、必要に応じて病院受診などの早期対応を心がけている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院先の病院を訪問し、情報交換に努めている。安心して退院できるように、利用者や家族との話し合いを持つようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族とのコミュニケーションを図りながら、重度化した場合の対応について話し合っている。  (外部評価) 病状の経過を踏まえ、必要に応じ医師に相談しながら、家族・本人の意向を確認している。入居時に利用者からの申し出で確認できる場合もある。ターミナルを迎える本人・家族の気持ちの理解などを学ぶためにターミナルケアの研修会にも参加している。看護師が5名おり、訪問看護師との連携も適切に行える。ホームとして看取りの経験もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 事業所では終末期ケアを行っており、独自の看取りの指針も作成している。利用者・家族・スタッフ・かかりつけ医間で連携を図りながら、最後まで本人らしい生活ができるように取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時には、関係者間で十分に情報交換を行うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 自尊心に配慮した対応を心がけており、個人情報の取り扱いについては家族の同意を得るなどし、慎重に行っている。  (外部評価) 言葉かけなど安心感のある笑顔で接している。また、入浴や排泄の際もプライバシーに配慮している。ミーティング時に職員間で話し合う場合も、利用者が近くにいれば名前ではなくイニシャルで呼ぶなどの工夫をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個々の性格や症状にあわせて声掛けを行い、できる限り利用者の気持ちを尊重し自己決定を促すように携わっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活スタイルを尊重しながら関わりを持つように配慮している。  (外部評価) 一般的な一日の流れにこだわらず、一人ひとりの希望で時間を過ごしているためか、それぞれの居室で過ごす時間が長い。スタッフは積極的に居室を訪れ、コミュニケーションと事故予防に取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 事業所に月に1回、訪問美容の方に来ていただいているが、希望があれば馴染みの美容室へ、家族又はスタッフが同行している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の嗜好を把握してメニュー作りに反映している。利用者とスタッフが一緒に食事作りや、準備・後片付けを行っている。  (外部評価) 利用者と職員が同じテーブルで一緒に楽しく食事している。食後はしばらくの間皆でおしゃべりを楽しんでいる。利用者はそれぞれできることに合わせて食事の準備や後片付けを手伝っている。おにぎりを作って外出先で食べることもある。誕生会は希望のメニューを取り入れている。料理の勉強に行った職員もいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者・家族と話し合い、一人一人の状況に合わせて嗜好品を楽しめるように検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) できるだけトイレで排泄できるように考えながら、状況によっては排泄の失敗を減らせるよう、声かけや誘導を工夫している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望に添った入浴ができるように支援している。  (外部評価) 入浴日、時間帯に決まりはなく、希望を中心とした利用が可能である。リフトが設置されており、全員が浴槽に浸かれる工夫がある。リフトは安全面と職員の無理のない介護にも役立っている。入浴を拒否する方には、誘うタイミングや声をかける職員を代えるなどの工夫をしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの生活スタイルを尊重し、その都度状況に応じて安心して睡眠がとれるような配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 無理強いせず役割を担っていただき、楽しみや気分転換に繋げている。  (外部評価) 植木職人だった人には剪定を、整備士だった方には道具の修理や細かい作業などをお願いしている。また、着物の着付けや魚のさばき方を教えてもらうなど多くの場面で力を発揮してもらっている。また、お正月はできる限り家族と楽しく過ごせるよう配慮している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出先で買い物や、移動パン屋さんがきた時に直接支払いができるようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 個々の希望に応じて、買い物や図書館への外出を支援している。  (外部評価) 図書館や買い物など、希望のある方との外出は積極的に行っている。また、ホームには車いすも出入りできる広いテラスがあり、テラスからの風景は海・山に囲まれ絶景でベンチも置かれ、景観のよい展望台にいる気分を味わえる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) お墓参りや、空き家になっている自宅などへの外出は、家族の協力を得て行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を管理できる方は自由に使用していただいております、手紙はポストへの投函を支援している。自宅への電話についても、できる限り協力している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 馴染みの方の面会があった時は、利用者と一緒に出迎えたり、見送りをするなどし、気軽に来られる雰囲気作りに努めている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況に応じて身体拘束しないケアについて話しあい、そのケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 不安が強い利用者は行動を抑えるのではなく、寄り添い・訴えを傾聴することで鍵を掛けないケアに取り組んでいる。  (外部評価) 職員は常に見守りの意識を持っており、特に注意を払う必要のある利用者は常に居場所を把握するよう心がけている。玄関は開閉時にチャイムが鳴り、その都度確認している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者同士で過ごす時間を大切にしながら、居室で過ごしている時間は巡回を頻回に行うようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 衣類をはさみで切る利用者が入居されている為、はさみを引き出しに入れて管理しているが、壁画作りの際にはスタッフの見守りのもと、使用していただけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアル作成し、訓練を行ったり、ミーティングで対応を周知するなどしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応について話し合いを行っており、緊急連絡網も作成しているが、定期的には行えていない。	※	全てのスタッフが速やかに対応できるように周知徹底していきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練をしたり、ミーティングを重ねているが、地域との協力は具体的には検討できていない。	※	今後、地域の方々との面識を深めていく中で、災害対策についても話し合っていきたい。
			(外部評価) 消防署の通報・避難誘導・消火訓練を受けている。ホームは出入口と、非常口を広く取っており、万一の避難の際に安心である。災害時には運営法人内相互で利用者の避難先となることも想定している。	※	火災以外の災害も含めて想定し、万一の場合に地域の協力も得られる準備を期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) かかりつけ医から直接、起こりうるリスクについての説明を行ったりしている。日常生活もできる限り自由に暮らしていけるように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化については、早期発見・早期対応に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬時は細心の注意を払って行い、薬の変更時には処方箋の確認を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) リハビリ体操で体を動かしたり、食事できる方はヨーグルトや水分摂取を勧めたり、嗜好に応じて配慮している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 嚥下障害のある利用者は、1日数回口腔ケアを行っている。他の利用者は、毎食後洗面所へ誘導し口腔内のケアを支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量を記録したり、状況に応じて食事の形態を工夫することで食べやすいよう工夫している。お茶をペットボトルに入れたり、水分を薦めるなどの配慮もしている。  (外部評価) 運営法人内の管理栄養士作成のメニューを基にしている。慢性腎不全や胃ろうの方にもそれぞれに配慮して適切な対応をしている。食事・水分摂取量も確認している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染対策マニュアルを作成しており、症状発生時には対応可能な状況にある。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 常時調理用具などの消毒を消毒を行ったり、2～3日ごとに食材を配達してもらう事で新鮮な食材を提供できている。賞味期限のチェックや保存方法にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には鉢植えの花を置いたり、季節の壁飾りを作成して家庭的な雰囲気作りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下には写真を、リビングには季節の貼り絵・折り紙工作を飾るなどし、明るい雰囲気作りをしている。  (外部評価) 共用空間は広く明るく、風通しもよい。共用空間からは海や山が見え、ウグイスの鳴き声が聞こえるなど季節感を味わえる。トイレの場所もユニットの端と中央にあり、介助する側にも使い勝手のよい広さや手摺りがある。廊下も広くホーム全体に開放感がある。食卓も職員が一緒に食べても十分な広さがある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのテーブルから離れた位置にソファを置き、共有空間で自由に過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みのある家具や布団などを使ってもらうことで、安心して過ごせる環境作りに努めている。  (外部評価) ホームはベッドと洋服タンスを用意している。希望によりフローリングに畳を敷くなどして利用者のこれまでの生活スタイルにあわせている。ソファ、机、チェスト、仏壇、テレビ、家族の写真などを思い思いに持ち込み、その人らしい居室になっている。職員は本人・家族と相談し、安心して過ごせる居室づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 快適に過ごせるよう、居室のドアや窓を開けたりエアコンを使用して、常時温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) エレベーターや手すりの設置、屋内はバリアフリーとし、備え付けのクローゼットを固定するなど、安全に自立した生活ができるような配慮をしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレや居室のドアに目印をつけるなどして分かり易くしたり、さりげなく声かけや誘導を行うことで混乱や失敗を最小限にとどめるよう、工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) リビングのテラスで季節の移ろいを感じられたり、景色を楽しみながらリラックスすることで気分転換を図っている。	※	敷地内の整備が済めば、建物の外回りを散歩コースにと検討している。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	利用者とかかわる時間を多く持ち、皆さんの要望をケアプランに活かし、毎日一人の利用者にスポットを当ててそれについて検討・評価している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎食後にコーヒータイムを作り、又おやつ時間をゆっくり持つことにより利用者で過ごす時間は多い。居室を訪ねてマンツーマンで話す時間も作るよう努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	危険な行為や他の利用者に迷惑をかけられる行為については別として、生活スタイル等について特に制限することなく自由に過ごしてもらっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不安感から一時的には帰宅願望に繋がる場合があるものの、皆さん1日の大半をニコニコ笑って過ごされており、お喋りもよくされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	「買い物に行きたい」「図書館に行きたい」などの要望については、できるだけ早く対応している。ただ、ユニット全体となると体調や外出の好き嫌いなどにより実行が難しい面もある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	他の事業所に比べ、看護師を多く配置している。夜間等、介護職員のみの場合も緊急時はオンコールで看護師と連絡が取れる体制をとっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者によっては不安感が強い時間帯もあるが、スタッフを増員するよう努めている。また体調の変化にいち早く気付くよう心がけ、必要に応じて病院受診するようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	1階入り口(玄関)に家族からの意見箱を設けている。また、家族が来られた時は利用者と共に出迎え・見送りをすることで話す機会をつくっており、来所しやすい雰囲気作りに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地元のスタッフの呼びかけにより、地域の方々に大正琴の演奏会を開いて頂いた。誕生日会などのイベントの時に時間を作ってくださると約束をして頂いた。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を定期的に行うことができるようになり、町内の回覧板を事業所へ回していただいている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	辞職するスタッフは少なく、他の事業所とのスタッフの交代も減多にない。懇親会も定期的に行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	常に利用者本位を念頭におき、スタッフは努力を怠らないようにしているが、今後もサービスの維持・向上に努めていかなければいけないと感じている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	細かい要望はあるが、できるだけ速やかに的確に対応するよう努力している。退所を希望される家族は減多になく、自宅の近くがいい・・・との理由から他に移られた例があったのみ。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)